

【お知らせ】新メールマガジン配信サービスを開始します

定期配信中のメールマガジン「**-材料（コンクリート）-GBRC最新情報**」に対して、当法人の独自事業の一つ「**建設材料技術認証・証明事業**」（以下、**性能証明**と略記）に特化したメールマガジン「**-材料証明-GBRC最新情報**」を新たに配信する運びとなりました。皆様の新たな技術開発などにお役立て頂ける情報の提供・共有をコンセプトに配信して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

性能証明

新たに開発された建設材料に関わる様々な技術を当法人が**第三者の立場**から、学識経験者などの専門家で組織する「**建設材料認証・証明委員会**」のもとで審査し、その技術が保有する性能を証明（**当法人の独自事業**）。

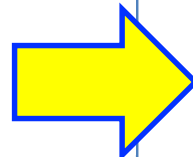
☞ 性能証明書の発行

- ▶▶▶ 証明実績などからこんな技術が注目されています。
環境負荷低減、現場対応型コンクリート技術（高流動化など）、ひび割れ抑制、ICTの活用、etc
- ▶▶▶ 懇切、丁寧、親身、迅速をモットーに事務局も専門の立場から皆様をサポート。



【情報発信 & 共有】

メルマガ「**-材料証明-GBRC最新情報**」
1回/3ヶ月を目安に**今後定期配信予定**



性能評価

建築基準法 第37条 二号における「指定建築材料の大臣認定」の指定性能評価機関として評価。学識経験者などの専門家で組織する「**材料性能評価委員会**」のもとで審査。

☞ 当法人が**評価書を発行**、国土交通省が**認定書を交付**



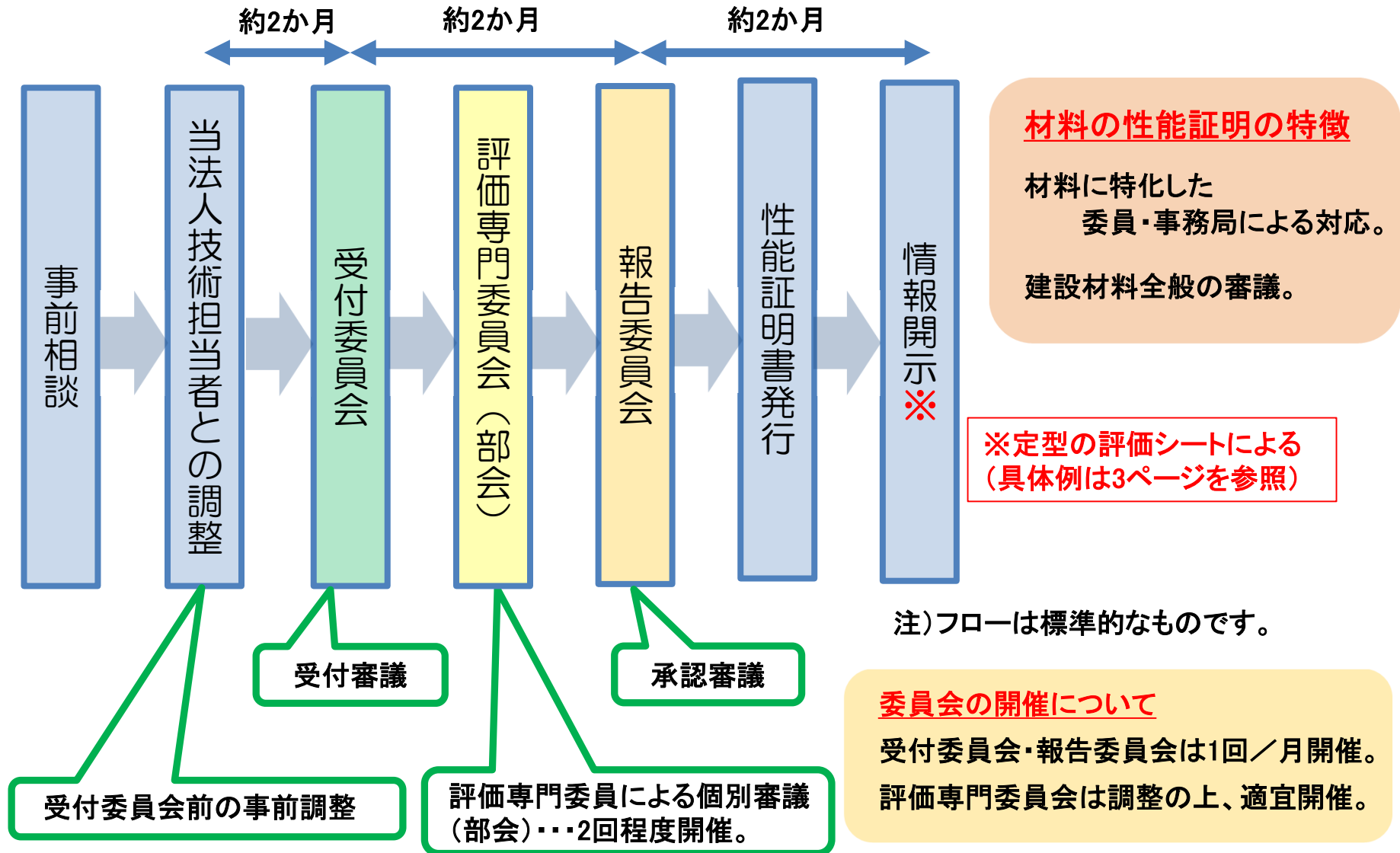
【情報発信 & 共有】

メルマガ「**-材料（コンクリート）-GBRC最新情報**」
1回/3ヶ月を目安に**定期配信中**

● 今後の配信予定

- ・ 証明実績（事例紹介）
 - ・ 委員会の開催情報
 - ・ 技術コラム
 - ・ イベントの案内、ほか
 - ・ 試験室の紹介（材料試験室・中央試験室など）
- ※ご希望のコンテンツがありましたらご連絡ください。

性能証明の流れ（フロー）



【証明事例】

スランプものをフローものへ～現場で高流動化させる技術～

◇『粉体量を増やさずに自己充填性や材料分離抵抗性を確保・向上させたいとき』

↓
実現のための事例：  **流動化剤（増粘剤含有タイプ）の活用**

【補足情報】

★これまでの証明事例では、以下の基本的な性能が証明内容に組み込まれています。

- 流動性**：目標のスランプフローの確保
- 強度性状**：流動化後の圧縮強度は調合管理強度の確保

★膨張材や収縮低減剤などを併用し、さらに**性能を付与**した性能証明の依頼もありました。

★「JIS A 5308：2019」では、コンクリートの区分による組合せ（いわゆる星取表）が拡充され、普通強度クラスでスランプフロー管理のコンクリートが新たに規格化されました（**高流動コンクリートのJIS生コン利用の拡大**）。流動化されたコンクリートの選択肢が広がったこととなりますが、ここで紹介しました「**現場で高流動化させる技術**」は、コンクリート工事において必要な場面もあると思います。性能証明を検討される場合は是非日総試にお声掛けください。

※取得された性能証明については、
当法人のホームページ
(https://www.gbrc.or.jp/building_confirm/kentikuzairyo_shomei/list/) で
定型の「**評価シート**」として閲覧できますので、
興味のある方は是非ご覧ください。

性能証明技術（材料）一覧【～2019年4月30日】

性能証明番号	技術名称	取得者	発行日	評価シート
19-01	鉄筋式高流動化コンクリート	鉄建建設(株)	2019/4/10	
18-07	繊維補込シートを用いたタイル張付けモルタルの剥落防止工法	タイル剥落防止工法研究会（代表会社）(株) 浅沼組	2018/8/21	
17-21	長谷工式H&Aコンクリート-真摯セメント混合による高炉セメントA種増量コンクリートの製造および施工	(株)長谷工コーポレーション	2017/10/16	
17-01	UCI法を用いたコンクリートの強度物性評価システム	鹿島建設(株)技術研究所	2017/9/5	
16-16	奥村式現場添加型高流動化コンクリート	(株)奥村組	2016/7/28	

※これまでこのような**現場対応型の高流動化技術**に関する性能証明の依頼を複数頂戴しております。
→GBRC性能証明 第16-16号（下記参照）や第19-01号など

(一)附日本建築学会技術情報誌
建築技術性能証明 評価シート

【技術の名称】 奥村式現場添加型高流動化コンクリート	性能証明番号 ：G6RC 性能証明 第 16-16 号 性能証明発効日 ：2016 年 7 月 28 日 【取得者】 株式会社奥村組
--------------------------------------	--

【技術の概要】 本技術は、レディーミクストコンクリート工場で練り混ぜられ、建設現場にトラックアジテータで運搬されたコンクリートに、分離抵抗性を有する高流動化剤を添加し、トラックアジテータのドラムを回転・攪拌することによって高流動化コンクリートを製造するものである。	【性能証明の内容】 本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。
--	--

申込者が提案する「奥村式現場添加型高流動化コンクリート」製造マニファスクリに従って製造された高流動化コンクリートは、以下の性能を有する。

- (1) 材料分離を生じない。
- (2) 目標スランプフローは45～55cmで、管理幅は±7.5cmの範囲を満足すること。なお、調合管理強度 40N/mm² 以上の場合、目標スランプフロー55cmの管理幅は±10cmの範囲を満足する。
- (3) 高流動化後のコンクリートの圧縮強度は、調合管理強度（呼び強度）を満足する。
- (4) 膨張材混入コンクリートの高流動化後の膨張量は、ベースコンクリートの膨張量と同等である。

【技術開発の経緯】

近年のコンクリート価格は、部材が複雑・多岐にわたることや配筋が密な部材が増えつつあり、コンクリート工事においては、それらに対応すべく、流動性・充填性を高めた高流動コンクリートのニーズが高まっている。高流動コンクリートとしてJIS高強度コンクリートや大臣認定高強度コンクリートが使用されているが、材料分離抵抗性を確保する目的から多量のセメントを使用するため、セメント水熱に起因する温度ひび割れ発生リスクが高まり、また必要以上の強度のコンクリートとなることが多い。実施工においてもJIS高強度コンクリートや大臣認定高強度コンクリートが製造・出荷可能であるレディーミクストコンクリート工場は限定されている。このような背景から、本技術は、全国の現場で高流動コンクリートの使用が可能となるよう、工場から現場に運搬されたトラックアジテータのコンクリートに、増粘成分を有する高流動化剤を投入し、流動性の高いコンクリート（スランプフロー45～55cm）を製造する方法を実現しようとするものである。

高流動化剤の投入・攪拌

ベースコンクリート 現場受入れ

高流動化コンクリート

写真 現場添加型高流動化コンクリートの製造

表 建築技術性能証明の範囲と適用条件					
調合管理強度(N/mm ²)	スランプフロー(cm)	高流動化目標スランプフロー			
		45cm	50cm	55cm	60cm
ベースコンクリート 調合条件	使用可否	○	○	○	○
	圧縮強度(N/mm ²)	27～33	34～40	41～45	46～50
	圧縮強度(N/mm ²)	34～40	41～45	46～50	51～55
	圧縮強度(N/mm ²)	51～55	56～60	61～65	66～70
	圧縮強度(N/mm ²)	71～75	76～80	81～85	86～90

＜流動化剤／現場添加型高流動化コンクリート＞
GBRC性能証明 第16-16号 評価シートより

性能証明の活用

GBRCの性能証明は、建築物の構造関係技術基準解説書の中で特別な調査・研究等の扱いについて解説されているように、建築主事等の判断のための**技術的根拠**になることを主眼にしていますが、その他にも様々な立場で有効に活用することができます。

建築主事（行政）等

法適合性等を判断する際の技術的根拠資料として活用

公平・公正な第三者による
性能証明を取得した材料技術

材料技術の開発者
(材料メーカ、施工者等)

安心して使ってもら
うための客観的根拠
資料として活用

材料技術のユーザ
(発注者、設計者、
施工者等)

適切な技術を採用
する際の判断資料と
して活用

【イベント】

業務説明会（無料）のお知らせ

2020年2月の開催に引き続き、**第2弾**を予定しております。今回は、特に新型コロナウイルスの感染状況に十分配慮した上で、慎重に対応したいと考えております。

開催等に関連する情報につきましては当法人HPやメールマガジンの臨時配信等でお知らせ致します。



業務説明会の様子（2020年2月開催時）

〔編集後記（坂本 欣吾）〕

性能評定課で仕事をさせていただいている坂本です。この度、建設材料関係の証明事業にも積極的に携わせていただくこととなりました。新規性、独自性のある建設材料技術には非常に興味があります。大臣認定で培った経験も活かし、良い建設材料を積極的に活用できるよう、少しでも皆様の力になればと考えています。何かあれば是非ご相談ください。

発行者：一般財団法人 日本建築総合試験所
建築確認評定センター 建築確認評定部 性能評定課
担当者：荒井正直、坂本欣吾、津平公彦、永田洋一
連絡先：GBRC大阪事務所 TEL 06 - 6966 - 7600
E-mail: seinou3@gbrc.or.jp